

あなんしながわほくがん  
阿南市那賀川北岸地域広域保全協定運営委員会

～みんなで守ろう地域の宝 農地・水・環境～



第5回ウォーキング大会(R1)



第4回舟のある広場まつり(R1)

## 経緯

- 用水路の老朽化とともに担い手の高齢化や後継者問題等に直面し、多面的機能支払交付金事業に取り組むこととした。
- 15の地域保全会の活動を進める中、環境の保全や景観形成を広域活動として取り組むことの利点に着目し、古き賑わいの復活や地域活性化を促進するための活動を開始。

## 取組内容

- 幹線沿い荒地をバックフォー、チェーンソー、人力を駆使し整備。後地にヒマワリやコスモスを植栽。
- 各地にコスモスを植栽し、3つのコスモス園を結ぶウォーキング大会を実施。
- 条件不利な遊水池を活動のシンボルとして整備。花しょうぶ開花時にあわせ「舟のある広場まつり」を開催。

## 活動の効果

- 荒地にヒマワリやコスモスを植栽することにより、景観地域に変貌した。
- 「舟のある広場まつり」は、地域伝統保存会や各種サークル団体の発表等があり、文化の保存、サークル活動披露の場となっている。
- イベントは、近隣地域だけでなく、新聞やテレビ等を通して県内全域に認知されるようになった。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

人と地域をつなげる活動として、これらのイベントをさらに広げていきたい。また、環境保全活動を通じて地域活性化を推進していきたい。

たかがい ふみお

## 高開 文雄 (高開の石積み)

～石は宝？ 石と共に生き地域を活性化～



高開石積みライトアップ



高開文雄(石積み風景)

## 経緯

- 美郷は山間部の平野の少ない地域で、急峻な山の斜面を段々畑や宅地として活用するため石積みが発達。
- 専門家から、希少価値があると教示を受け、地域の活性化及び後世に残すために地域のNPOと共に活動開始。

## 取組内容

- 地元のNPOと協力し、毎年4月1日から20日間程、「高開石積み芝桜まつり」を開催。
- 2001年から、「高開石積みライトアップ」を開催。提灯を持って、石積みを歩き地域の人と交流するイベントを開催。
- 東京工業大学 真田准教授と協力し、石積みを全国に普及・指導する「石積み学校」を開催。

## 活動の効果

- 「高開石積み芝桜まつり」では、石積みと芝桜のコラボがいいと評価を受け、多くの県内外の人が訪れる。高開石積みが注目されることにより「美郷」の価値が向上。
- ライトアップイベントは毎年訪れる方も多く、交流の場になっている。
- 景観工学を軸とした「石積み学校」では全国から多くの参加者が訪れる。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

高齢のため積極的なイベント開催はできなが、現在の多くの活動は後継者を作り、後世に引き継いでいく。美郷の基盤となる地元の宝である自然を使うイベントを今後も行っていく。

やくざいし  
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

～幅広い対象者が継続して就農する農園～



高床式砂栽培ハウス新設



技術指導

## 経緯

- 全国的に農福連携の取組みが積極的に行われる中、就農したくてもできない障害者や離農する高齢者も多い。
- 幅広い層が就農できる環境を整備することにより、農福連携の取組が加速するだけでなく、活気あるまちづくりが可能となると考えた。

## 取組内容

- 初心者でも始めやすく、園芸によるヒーリング効果が最大限に期待でき、軽負担で儲かる農業として高床式砂栽培を行うこととし、ハウスを新設した。
- 見学会を開催。
- 体にいい美味しい野菜を栽培し、地元マルシェや大型ショッピングモールで販売。

## 活動の効果

- 障害者に就農してもらい、技術を取得してもらうことにより、障害者のみで栽培管理する自立型農園(3年計画)を目指している。
- 農福連携の必要性の説明や普及活動を行った結果、多くの方と交流することができた。
- 栽培した野菜を販売することで、地域の食に貢献している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携はそれぞれの分野が抱える課題にチャレンジする、今取り組まなければならないもの。地元農家さんと連携し、広く人のためになるものとして今後も取り組んでいく。

5

あわ  
徳島県阿波市環境保全・  
景観保全よしのがわぜんにゆうじ  
吉野川善入寺土地改良区

～後世に残そう宝の島～



善入寺島の全景



園児によるジャガイモ収穫風景

## 経緯

- 四国最長河川「吉野川」の中流域にある日本一の川中島「善入寺島」は、阿波市と吉野川市にまたがる総面積500haの島で、約350haが肥沃な農地となっている。年間を通して様々な野菜や水稲が栽培され、両市にとって重要な農業資産となっている。
- この「宝島」を農業のみならず、歴史、文化、景観、教育の場として次世代に継承していくため、活動を始めた。

## 取組内容

- 支障を来していた、農地の中の巨木を森林組合に依頼して伐採。点在している不作付地は一般市民と共同で除草。耕作しない農地には緑肥となるヒマワリやコスモスを植え美しい景観を演出。
- 島内にある「四国八十八ヶ所遍路道」への植花、除草を行う。
- 地元幼稚園児や小学生を対象に、野菜の植付けや収穫体験を実施。

## 活動の効果

- 美しい景観は、結婚式用の写真撮影や家族の憩いの場として多くの人に親しまれている。
- 約千二百年前に空海上人が開祖した遍路道を整備したことにより、気持ちよく巡礼できると、歩き遍路が増加している。
- 食育により子供たちの農業に対する理解が深まり、阿波市、吉野川市の給食センターで使用する多くの野菜がこの島から供給されている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農業の振興をメインに、四国霊場八十八箇所を巡る遍路道の中でも白眉の景観を誇る「善入寺島」を情報発信していく。

阿波市市場町市場字上野段737-1 Tel:0883-36-3240


 ごっつお あわ  
**GOTTSO阿波**
**《準グランプリ》**
**～野菜でまちおこし！若手農家たちの奮闘記～**


2020年度のポスター



食育「美～ナス収穫中！」

**経緯**

- 農業後継者たちの「農家の力でまちを元気にしたい」という熱い思いでグループを発足。
- 自分たちの生き方やおいしい野菜をPRすることで、高齢化が進む農業を盛り返し、地域の役に立ちたいという思いで活動。
- 2012年、震災後の東京へ行き、野菜を販売したことが始まり。

**取組内容**

- 「野菜の力でまちおこし」を目標に掲げ、関西～関東まで野菜の出張販売や広報を幅広く実施。
- 「GOTTSO美～<sup>®</sup>ナス」を生産し、ブランド野菜として確立させた。美～ナスで食育も実施。
- 東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO美～<sup>®</sup>ナス」の納品を目指し、「グローバルGAP」、「とくしま安<sup>2</sup>GAP（優秀）」認証を取得。

**活動の効果**

- 出張販売や広報を幅広く行い、自らが「まちのPR隊」として活動し、地域の活性化に一役買っている。
- ナスが苦手な子どもが多かったが、ナス好きの子どもが増加している。食育を通じ、子どもたちに野菜のおいしさや植物を育てる楽しさを伝えている。
- 多くの人と出会い、交流が生まれ、会員の視野はどんどん広がっている。

**応募団体からのアピール・メッセージ**

グループの強みは仲間同士で協力し新たな活動を行えること。若手農家を引き入れて、楽しみながら農業で儲けられるような「新たな農業」を目指していきたい。

阿波市阿波町東原173 Tel:090-3787-2756(寺井会長)

しではら  
 仕出原 自治会

## ～清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット～



清流穴吹川と「しでの家」



草刈り共同作業

## 経緯

- 八朔の産地仕出原集落は、少子高齢化、後継者不足、鳥獣害、耕作放棄地拡大等多くの課題を抱え、集落存続の不安があった。
- 各種支援制度を活用し、積極的に中山間地域の環境整備に取り組んだ。美馬市から「リバーサイドしでの家」の運営を委託され、村おこしの起爆剤とした。

## 取組内容

- 景観維持のため、集落が共同で安全対策や環境整備に取り組む。
- 伝統果樹の八朔(とくしま特選ブランド認定)は、EUへ輸出。
- 「しでの家」は夏場の川遊びやブルーベリー狩りの人気スポットとなっており、自治会が管理・運営を行っている。
- 農家が大学生を受け入れ、はっさく摘果等の農作業体験を実施。

## 活動の効果

- 八朔は輸出で知名度アップが図られ、ブルーベリー観光農園は好評を得て増園している。
- 「しでの家」の運営を通じ、集落と外部の人々との交流が深まり、協調性が醸成された。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

他の多くの八朔産地は見切りをつけたが、昭和30年代から伝統の八朔を守り、逆に希少価値を高めた。「はっさくシャーベット」「栗アイス」は「しでの家」の名物となっている。農業体験を通じて、I・Uターンの受け入れと空き家利用も自治会で検討中である。

美馬市穴吹町口山字仕出原80 Tel:0883-52-0468

やまんと

## 山人の里運営委員会

～里山体験で「山人(やまんと)」になろう！～



子ども会のピザ体験。地元食材もたっぷり。



首都圏大学生による農業体験。そば蒔き作業。

## 経緯

- 廃校した重清北小学校を地域イベントの場所として利用していたが、地域住民アンケートを実施した結果、「宿泊施設」として利用することとなり、施設整備を開始した。
- 「賑わいの灯を消したくない」「地元住民で守った思い出のある木造校舎を風化させない」その強い「思い」から、「山人の里運営委員会」が結成された。

## 取組内容

- 森林から採取した材料を使った「置時計」等の作成、農業体験、本格石窯で地元産の野菜を使ったピザづくり等、様々な体験メニューを展開。
- 宿泊施設は小・中・高・大学生の合宿・研修に活用されている。民間企業の長期滞在型利用も実施。
- 近隣の金比羅街道(峠道)周辺の里山保全活動を実施。

## 活動の効果

- 農業体験、林業体験、ピザづくり体験などの地域性溢れる体験メニューは、様々な来場者に楽しまれている。
- 大学の地域づくりに関する研究活動などが行われ、里山地域の新たな可能性モデルとして成果を上げている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

豊かな自然と、山間部で暮らすのに必要な様々な技術を有する「山人(やまんと)」の暮らしは、大変贅沢かつ豊かです。宿泊施設「山人の里」で様々な人との交流に繋がっています。

にしぶち

## 西瀨農産加工研究会

～和と和む天空の里「瀨名」～



農家レストラン「風和里」



学生のフィールドワーク

### 経緯

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波」地域では、傾斜地農耕を行っている。
- 瀨名集落では、農産物を栽培するとともに、干し芋や干し大根などの加工も行っている。加工や栽培の共同化による農業経営の効率化や担い手の育成を図るため、平成25年に「西瀨農産加工研究会」を設立。

### 取組内容

- 甘藷・茶・イチジク等の剪定・収穫・加工等の作業を共同で取り組んでいる。
- 「にし阿波の傾斜地農耕システム」の日本農業遺産の認定等を機に訪問者に地元野菜料理を提供するため、平成29年農家レストラン「風和里」(ふわり)を開設。
- 大学生や高校生の校外学習活動を積極的に受け入れている。
- 集落でのお茶の栽培と「瀨名茶」を使った商品開発にも取り組んでいる。

### 活動の効果

- 農作業等を共同で取り組むことにより、作業の効率化が図られている。
- 農家レストラン「風和里」は地域内外の交流促進や地域のPRに繋がっている。
- 加工品や農産物が世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証商品の認定を受け、加工品や地域の認知度などの付加価値が向上している。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

農家レストランと農家民宿が連携し、インバウンドを含めた観光客の誘客拡大により地域住民との交流を進め、瀨名集落やにし阿波の関係人口の拡大を図る。



よしだ  
 吉田 ますみ

～手のひらの茶葉を豊かな農文化と伝統に～



二と八代表 吉田ますみ



地元の穴吹高校生徒とのフィールドワーク

## 経緯

- 瀨名地区にUターンをしてカフェを開業。そこから茶畑保全活動等を行うグループ「二と八」が生まれた。
- 「世界農業遺産認定地域・美馬市穴吹町瀨名地区で育まれた自然からの贈り物を子供たちの心に繋げたい」という想いで、2018年から活動開始。

## 取組内容

- 耕作放棄地となっている茶畑再生と、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
- 地元高校とのフィールドワークを年間6回実施。傾斜地農法の圃場での農業体験も実施。
- 地元高校生や外国人ボランティアなどにも活動に参加してもらい、緑茶に関わる人々を増やし、活動を通して感じたものを発信している。

## 活動の効果

- 年間6回の地元高校生のフィールドワークは、延べ100名以上の参加となった。
- 茶畑保全活動への参加者は年々増加。
- 試作を重ね、商品開発を行い、商品化。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

活動を通して瀨名という地域、世界農業遺産の地域を広く認知してもらいたいと考えている。瀨名集落に来てもらい、地域のブランド化を行い地域との結び付けをこれからも行っていきたい。

あるせ  
生活改善グループ 有瀬つくし会

～何も無い所で何かを見つけてお帰りください。～



楽校(がっこう)の宿「あるせ」の全景



世界農業遺産に認定された有瀬地区の急傾斜地

### 経緯

- 休校中の旧有瀬小学校を利用し、何か活動を行おうではないかという提案に賛同した者により「生活改善グループ有瀬つくし会」を結成。地元で古くから作られていた味噌、豆腐、コンニャク、そば等を製造し、各種イベントでの出張販売に取り組んでいた。
- 平成27年4月、廃校が決定した校舎を借り受け、民宿楽校(がっこう)の宿「あるせ」を立ち上げた。

### 取組内容

- 山間部に位置する有瀬地域の食文化の再生と伝承のため、遊休農地30aを開拓し、原材料となるそば、コンニャク玉、大豆等を生産。これらを使用した味噌、石豆腐、コンニャク、祖谷(いや)そばを作り、民宿楽校の宿「あるせ」で提供。
- 国際ボランティアを受入れ、農業体験や里道の整備、石豆腐やコンニャク製造等の体験を実施。

### 活動の効果

- 平成30年3月、「にし阿波の傾斜地農耕システム」が世界農業遺産に認定された。また、当地域にはラフティングのメッカとしても有名な清流吉野川が流れており、美しい景観や伝統的な農業・農法を体験しようと、国内外からの観光客が後を絶たない。楽校の宿「あるせ」の利用者も増えている。
- 人口80人足らずの山村で外国人も含めて年間約1000人を超す交流人口は村の活性化に十分寄与している。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

楽校の宿「あるせ」を中心に、傾斜地農業の体験や国際交流等を深め、地域の歴史や文化を国内外の人々に理解してもらいたい。

三好市西祖谷山村有瀬414番地1 Tel:0883-84-1337

かわうち はじめ  
 川内農園代表 川内 孟

～自然が生んだ奇跡のフレーバー「天空ノ山茶」～



夫妻と急傾斜地の山茶



天空ノ山茶製品

## 経緯

- 山城町上名地区では、標高300m以上の急傾斜地で自生種の茶を栽培。
- 平成26年、「日本茶AWARD2014」で、自然農法と希少性が評価され、うまいお茶部門審査員奨励賞を受賞。
- 受賞を機に、昔ながらの茶づくりそのものが「地域の宝」になると感じ、「地域ブランド」としての販路拡大と、活性化に繋げる取組みを始めた。

## 取組内容

- 昭和30年から60年以上も栽培している自生種の茶葉(多様な個性もつ)を原料に使用し、自然にブレンドされた香り高く味わい深いお茶、「天空ノ山茶」を製造販売。
- 肥料は山のカヤ等を敷き詰めるのみで、農薬を一切使用しない昔ながらの「自然農法」で栽培。地域内で協力し合いながら、茶摘みを行っている。
- 山茶は他の茶葉と区別するため、製茶工場の協力を得て、単独で製茶している。

## 活動の効果

- 三好市の大步危・祖谷地域は、インバウンドを含む観光客が増加しており、それに伴い、周辺の道の駅等の施設でも販売は増加している。平成30年の販売量は、平成25年の4倍となっている。
- 令和元年7月には、「三好やまびこふるさと会」により「三好の逸品」の登録商品に認定され、「三好の逸品アンテナショップ」において商品販売が出来るようになった。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

高齢化が進む山あいの地域だが、地域ぐるみで「にし阿波地域の世界農業遺産」としての傾斜地の景観維持と農業所得向上につなげていきたい。

いけだはくあい  
社会福祉法人 池田博愛会

～みんなが主役の生涯活躍まちづくり～



農福連携 ごうしゅういも植え付け



移住希望者とのそば打ち交流

## 経緯

○「菜の花プロジェクト」というエコ・リサイクル活動に参加したことがきっかけで、障がい者が主役になり農業を通じてプロジェクトの一躍を担うと共に、未耕作地の再利用による地域貢献や、地域の子供たちや住民と連携して食育や生産のあり方、成長し収穫する喜び、協働の目的を達成するために活動を始めた。

## 取組内容

- 近隣住民と障がい者、職員が協力し合い、菜の花やそばを播種、刈り取り、乾燥作業を実施。地元の小学生とそば打ち体験で交流。
- 菜種は障がい者が選別、搾油、瓶詰めし、三好市のアンテナショップで「里の雫」として販売。
- 地域創生事業として展開している地域交流拠点とことんの里の商品として、サツマイモの製品化を研究中。

## 活動の効果

- 地域住民や小学生、関係者と共に障がい者が仕事を行うことで、地域住民(子供～大人)の正しい理解を得るだけでなく、障がい者の工賃の向上や、自己肯定感の向上に繋がられている。
- 生涯活躍のまちづくり事業の一端を担うことで、過疎化が進む社会に歯止めをかけ、地域の活性化に繋げるための一役を担っている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

地域の魅力の発信と地域住民が輝ける取り組みなど、障がいを持つ人もない人も皆が主役となり、どのライフステージでも生きがいを持ち、活躍できる町づくりを行っている。

あわかつらいどばたじゆく

## NPO法人 阿波勝浦井戸端塾

～グローバル・地球と結ぶ勝浦づくり～



ビッグひな祭り



恐竜の里 イグアドン親子

## 経緯

- 勝浦町は中山間地域で基幹産業は「貯蔵みかん」であるが、昭和56年の寒凍害により壊滅的な被害を受け、長年町がひっ塞する状態が続いた。
- ふる里勝浦の再発見と町の活性化を目指し、平成3年「新とくしま県民運動推進」の認定を受け、「勝浦町・地域づくり井戸端塾大会」を開催し、活動を開始した。

## 取組内容

- 家庭で飾られなくなった「雛人形」を全国から集め、供養して飾る「ビッグひな祭り」を開催。
- 雛人形を30カ国を超える外国の方々に贈り、国際交流を図っている。
- ひな祭りを継続するうち、隣接地に産直「よってネ市」と道の駅「ひなの里かつら」が開設された。
- 平成6年、恐竜の化石が発見され「恐竜の里づくり」に取り組んでいる。

## 活動の効果

- 産直市と道の駅では、ひな祭りの期間中、特産の「貯蔵みかん」の販売が増加し、大きな経済効果をもたらしている。
- 「恐竜の里づくり」では、「恐竜ウォークラリー」を開催し、参加者は年々増加している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

「ビッグひな祭り」がマンネリ化しないよう新たな発想と創造で取り組み、インバウンドを積極的に取り込みたい。また、「恐竜の里」を中心として、自然の中を恐竜が散歩する「恐竜博物館」を目指す。